なな色の花育

花き装飾コース　武藤　那奈
（指導教員：村瀬　友衣）

１．はじめに

私は高校生の頃、将来の夢を花屋と保育士で悩むほど花と子どもが大好きだった。最終的には花屋になることを選択し、国際園芸アカデミーで花についての知識や技術を身に着けてきた。そんな中で花や緑に親しみ、育てる機会を通して子どもたちの心を育む取り組みである「花育」という活動があることを知り、魅力を感じた。また、花育の内容を自身で考えることで将来を見据えた企画力・運営力につながると考え「花育の企画・運営」を卒業研究のテーマとした。

２．花育活動への参加

本校教員が高等学校で授業を展開する「花と緑の連携授業」や、日本フラワーデザイナー協会岐阜県支部の方が担当している小学校での花育講座に私たちアカデミー学生もアシスタントとして参加した。これらに参加することで、花育活動を体験し、理解を深め、自身が企画・運営をする幼稚園児及び小学生を対象とした花育活動の参考とした。

３．幼稚園児を対象とした花育の企画・運営

対象者：学校法人川合学園　かわい幼稚園
　　年長児3クラス　合計83名
実施日：1回目　12月9日（すみれ組）
　　2回目　12月12日（すずらん組、あやめ組）
試作：以下の点に考慮して試作を4回行った。
　・切り貼りはできるがグルーガンやワイヤーは危険
　・予算は1人500円、制作時間は20分
当日：①挨拶
　②色を選んでもらい決まった子から花材や材料を配る
　③前で前半の説明を行う→前半を制作する
　④前で後半の説明を行う→後半を制作する
　⑤完成

写真－１　制作物

写真－２　制作の様子

良かった点
・時間配分がよく、スムーズに進行できた。
・子どもたちが自ら花の名前を聞いてくれるなど、花に興味を持ってくれた。
・参加した児童から口々に楽しかったと言ってもらえた。

反省点
・ボンドを同じ所に塗り込んでしまい、ボンドが足りず全体に塗れていなかったため、ボンドの量を増やし、全体に塗るよう丁寧に教える必要があった。
・手が汚れるのを嫌がる子がいたためボンドを塗るための道具を用意する必要があった。

→2回に分けて実施したことで、1回目の反省点を2回目に改善することができた。

４．小学生を対象とした花育の企画・運営

写真 - 3　小学校制作物

対象者：郡上市立高鷲北小学校　6年生12名

実施日：12月16日

試作：以下の点に考慮して試作を行った。

・クリスマス感が出るもの

・6年生のため、簡単すぎず、難しすぎないもの

・予算は一人3,000円、制作時間は90分

シミュレーション：花をほとんど触ったことのない本校の職員の太田さんに実際に指導し制作していただいた。

写真 - 4　授業の様子

当日：①挨拶

②1つの机に集まりお手本を見せる

③各机にスタッフが1名ずつ付き教えながら制作する

④②③の流れを5工程に分け、繰り返す

⑤箱のデコレーション

良かった点

・完成品のクオリティが高く、子どもたちだけでなく先生や保護者の方も喜んでくれた。

・時間内に終わらせることができた。

・作業が得意な子と苦手な子がいる中で全体に平等に声をかけつつ、特に困っている子には丁寧に寄り添いながら指導することができた。

反省点

・ワイヤリングに時間がかかったため、特に時間のかかったヒムロスギは事前にワイヤリングしたものを持参するべきだった。

・シミュレーションは対象者に近い年齢の子どもに対して行う必要があった。

５．まとめ

花育は、対象者や年齢、人数、環境によって様々な形に変化する活動であり、花育活動を行う上ではその場にあった色を引き出すことが重要だと分かった。タイトルである「なな色の花育」には、私自身の名前である「なな」に、花育の「その場に合わせて多様な色(形)に変化する活動である」ということを重ねている。さらに、自身で企画・運営をすることで私なりの花育を追及するという思いや、子どもたち一人ひとりの個性を大切にしていきたいという思いも込めた。

子どもたちが花に興味を持ち、笑顔で取り組む姿勢を見て、大きな達成感と花育の意義を強く感じた。さらに花は人々をこんなにも笑顔にさせるのだと実感した。卒業制作を通して、限られた条件の中でも目的に沿った活動を考える企画力が向上するとともに、子どもたちに花に親しむきっかけや、表現する楽しさを提供することができたと感じている。今回得た知識や学びを活かし就職先で花育活動の企画・運営を行っていきたい。そして、沢山の人に花の魅力を伝えていきたい。